

燕市DX推進ラボ

「燕市DX推進ラボ」とは、工業や農業といった「ものづくり」に携わる企業の生産性向上や技術高度化を図るため、産学官金によるネットワーク型組織です。

ラボでは、DXを始めとした最新技術の動向や活用事例等の情報共有、産学官金によるネットワークづくりに取り組むとともに、市内における先進的なプロジェクトを推進し、未来（次世代）に向けた価値を創造するものづくり産地を目指します。

ラボメンバー

プレイヤー

(ユーザー企業
・ベンダー企業等)

サポーター

(燕商工会議所、吉田商工会、
分水商工会、燕三条地場産業
振興センター、第四北越銀行、
協栄信用組合)

アドバイザー

(長岡技術科学大学、
新潟大学、新潟工科大学、
三条市立大学)

※ ユーザー企業：DX等、最新技術に興味のある、または活用している企業
ベンダー企業：システム、ノウハウを提供する企業

〈ラボの役割〉

生産性向上や技術の高度化に向けたセミナー開催、実証実験による意識啓発、共用クラウド開発、運用による基盤構築に取り組む

〈ラボの取り組み〉

- ・全体会議、検討会議
- ・先進事例セミナー
- ・燕版共用クラウド

〈ラボメンバーには…〉

- ☑ DXを始めとした最新技術に関する情報を随時提供
- ☑ アドバイザー・サポーターによる個別相談の実施
- ☑ ラボ関連団体への橋渡しを行います

企業の先進的な取り組みと課題

すでにDXなどの活用に取り組んでいる市内企業では、紙媒体による伝票やメモ、口伝えによる記録などのアナログな情報を、システム導入によりデジタル化するよう進める動きがあります。

アナログな情報

- ・紙媒体の伝票やメモ
- ・口伝えの情報など



システム導入

- ・受注情報や工程
情報などをシステム
へ登録



工程進捗、日程管理、
作業実績などの「**見える化**」・**データの蓄積**が可能

さらには…

センシング（データの収集と計測・数値化）により稼働状況や工程進捗、在庫状況などを即座にデータ化することも可能

一方で、先進的に取り組む企業同士の間でも、取り引きの際には、せっかくデジタル化したデータを受発注書等の紙媒体でやり取りするといった、作業の手間も発生しています。

燕版共用クラウド

燕市は、企業で一社完結で製品を供給するより、サプライチェーンにより製品を供給することが多い地域です。

そうした地域の特性を背景に、市では生産性向上や技術の高度化に向けたDX等活用の第一歩として、各社で蓄積したデータを格納するための「**燕版共用クラウド**」を構築し、様々な情報データを蓄積し、企業間取引での活用を目指します。

2~3年目

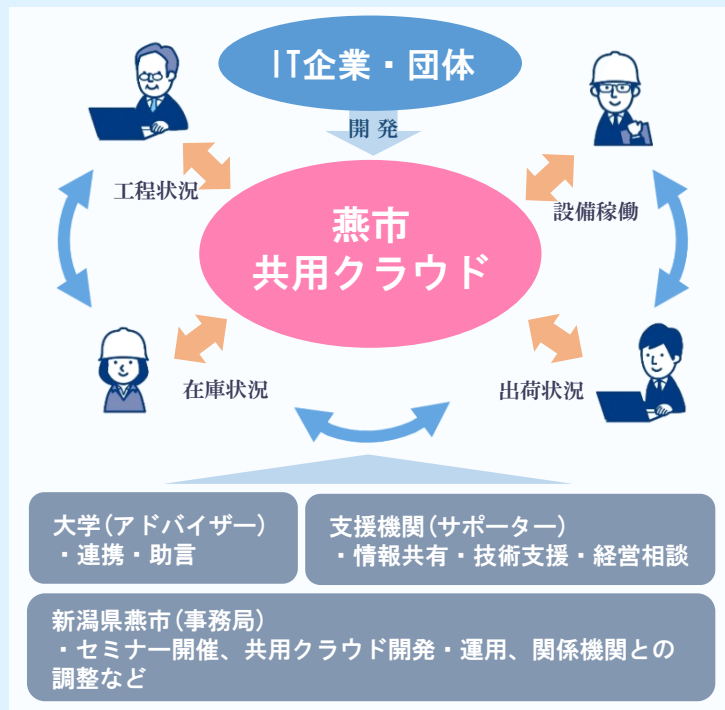
一定数の企業データを格納、かつ各社のニーズに合わせたバージョンアップを段階的に行う

さらには…

先進企業に合わせてセンシングによる稼働・工程・在庫把握・携帯端末による遠隔操作・AIによる自動操作等に取り組む

〈市が共用クラウドを構築することのメリット〉

- ☑ 信頼性の確保
- ☑ 企業の初期導入コスト削減
- ☑ 産地全体における企業間取引のデジタル化推進



問合せ先 (事務局)

燕市役所産業振興部商工振興課新産業推進係
〒959-0295 新潟県燕市吉田西太田1934番地
TEL 0256-77-8232 FAX 0256-77-8306
E-mail iotlab@city.tsubame.lg.jp

プレイヤー企業募集中！！

公式WEBサイトから申請もしくは裏面加入申込書に記入の上、事務局までご提出ください。



◀ 燕市公式HP